

3 第1次計画の評価

第1次計画は、平成15年3月に、平成15年度から平成22年度の8年間の計画として策定しましたが、国の医療制度改革及び国・県の健康増進計画の平成24年度までの延長に伴い、越谷市の計画は平成25年度まで延長しました。

計画は当初、(1)食生活(2)運動(3)たばこ(4)歯科保健(5)心の健康(アルコールを含む)の5領域を設定し、平成18年度の中間見直しでは(6)メタボリックシンドロームの予防とがん対策の充実を追加した6領域とし、各領域ごとに市民をはじめ、健康に関わる機関等が一体となって取り組むことができる具体的行動目標を掲げました。

評価は、まず市民や団体・行政の健康づくりの取組の内容を明らかにし、次に6領域について設定した関連指標における目標値の達成状況を評価しました。

評価の方法は、平成24年度越谷市・健康と医療についてのアンケート調査と市の健診データ等を基に、直近の実績値を把握し、第1次計画策定時の現状値と比較し、「目標達成」「現状値より改善」「現状値が改善されていない」の3段階で評価を行いました。現状値がないものについては中間評価値(平成18年度)と比較しています。

表 2-3-1 第1次計画の評価基準及び項目数

区 分	基 準	評価記号	項目数
目標達成	最終評価値が目標値に達した場合	◎	22
現状値より改善	最終評価値が目標値に達してはいないが、現状値を上回り改善されている場合	○	22
現状値が改善されていない	最終評価値が目標値に達せず、現状値と同様または下回る場合	△	12

※現状値とは、第1次計画策定時に把握した直近の値

(1) 食生活

スローガン

食事を大切にし、元氣なからだをつくろう

家族や仲間とたのしく食事をする機会を増やそう

市民及び団体の主な取組

目標〇生活リズムを整え、「食事」を大切にしよう

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
朝食を食べるよう働きかけます	朝食の重要性の普及啓発	教室・健診での資料配布や講話	市民健康課
		保育所試食会での講話と資料配布	保育課
		朝食や給食または食に関する標語募集、朝食レシピ集の発行	給食課
家族で食事をする日を増やすよう働きかけます	望ましい食習慣の定着を図る	レシピ集の発行、学校給食試食会・調理講習会の開催	給食課
男性の料理教室を開催します	男性の食生活自立を支援する取組の推進	男性料理教室の開催	食生活改善推進員協議会
		男の料理教室の開催	市民健康課
こどもの料理教室を開催します	幼児期から食への興味関心を高める取組の推進	カレーライス・パン・クッキー作り、親子クッキングの開催	保育園・保育課
親子料理教室を開催します	親子で一緒に料理し食べる楽しさを味わい、食への関心を高める取組の推進	おやこ料理教室・手作りおやつ教室の開催	食生活改善推進員協議会
		親子調理講習会の開催	給食課



目標○日本の食文化を大切にしよう

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
主食、主菜、副菜のそろった食事作りの講習会を開催します	バランスのとれた食事の普及啓発	ヘルシークッキングの開催、糖尿病講座・成人栄養相談の実施	市民健康課
		ヘルシー料理教室・カルシウムアップ料理教室・バランス食料理教室などの開催	食生活改善推進員協議会
和食、米飯料理講習会を開催します	和食や伝統食の普及啓発	和食のすすめ料理教室（伝統料理の継承）の開催	食生活改善推進員協議会
		手作り味噌作り、無添加味噌作りなど講習会の開催	くらしの会
各世代の「食育」をすすめます	各世代の「食育」の推進	給食試食会などの実施	幼稚園・保育園
		給食だよりの発行、保育所試食会の開催、子育て講座（離乳食について・お食事会）の開催、栄養教室及びクッキングの実施	保育課
		学校給食研究協議大会の開催、給食だよりの発行、食に関する指導の実施	給食課
		くすのきスクール（郷土料理、スイーツ（お菓子）作り、あったかスープと健康サラダなど）の開催	老人福祉センター
		食育推進事業の実施	保健所
		講演会「老化を遅らせる食生活～要介護者にならないために～」・介護予防「元気アップ教室」・おたっしや教室の開催	高齢介護課
		教室・健診での資料配布や講話	市民健康課

目標〇おいしい旬の野菜を食べよう

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
旬の野菜を提供する場を増やします	旬の野菜を提供する場の増設	農産物直売所「とれとれの」などでの農産物の販売	農業振興課
野菜栽培体験できる場を増やします	幼児期から野菜栽培体験できる場の提供	季節の野菜の栽培・収穫・試食体験	幼稚園・保育園
		野菜の栽培・収穫・皮むき・試食など体験学習の実施	保育課
	野菜栽培体験の実施	野菜作り基礎講習会	農業振興課
旬の野菜に触れる機会をつくります	旬の野菜に触れる機会を提供	低学年を対象にグリンピース・とうもろこしの皮むき体験の実施	給食課
野菜についての知識を提供します	野菜についての知識の普及	「越谷の農業・農産物についての特別授業」・「野菜作り基礎講習会」の実施	農業振興課
		全小・中学校へ地場農作物リーフレットを配布	給食課
野菜の有効性、摂取目安量を普及します 野菜料理講習会を開催します	野菜料理の普及啓発	野菜料理教室（地産地消を食卓に）の開催	食生活改善推進員協議会

目標〇食の安全性を求めよう

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
食品の安全性についての講習会を開催します	食品の安全性の周知	介護福祉関係事業者説明会において、食品の安全性についての講習を実施	保健所

コラム：賞味期限と消費期限の違いとは？

賞味期限：ハム・ソーセージやスナック菓子、缶詰など冷蔵や常温で保存がきく食品に表示してあります。開封していない状態で、表示されている保存方法に従って保存したときに、おいしく食べられる期限を示しています。賞味期限内に美味しく食べましょう。ただし、賞味期限を過ぎても食べられなくなるとは限りません。

消費期限：お弁当や洋生菓子など長くは保存がきかない食品に表示してあります。開封していない状態で、表示されている保存方法に従って保存したときに、食べても安全な期限を示しています。消費期限内に食べるようにしましょう。

なお、一度開封したものは、表示されている期限にかかわらず早めに食べるようにしましょう。表示されている期限は、開封後も保証されているわけではありません。

保存方法が書いてない食品は、常温で保存できます。直射日光のあたらない、湿気の少ない場所で保存しましょう。

取組結果

目標〇生活のリズムを整え、「食事」を大切にしよう

関連指標		現状値	中間評価値 (平成 18 年度)	目標値	最終評価値 (平成 24 年度)	目標に対する評価
朝食を欠食する人の割合	児童	4.6%	1.5%	1%未満	1.2% (平成 23 年度)	○
	生徒	6.6%	4.8%	1%未満	2.3% (平成 23 年度)	○
		平成 13 年度 児童・生徒の食 事に関する調査 (越谷市学校保 健会栄養士部 会)	平成 18 年度 児童・生徒の食 事に関する調査 (越谷市学校保 健会栄養士部 会)		平成 23 年度 児童・生徒の食 事に関する調査 (越谷市学校保 健会栄養士部 会)	
	20 歳代	20.8%	13.6%	8%以下	17.1%	○
	30 歳代	15.2%	12.7%	10%以下	12.4%	○
		平成 13 年度 市政世論調査	平成 18 年度 市政世論調査		平成 24 年度 越谷市・健康と 医療についての アンケート	
家族全員で食事 をすることが週 2 日以下の人の 割合	20 歳代男性	39.4%	42.1%	25%以下	35.4%	○
	30 歳代男性	47.3%	51.0%	30%以下	45.7%	○
		平成 13 年度 1 歳 6 か月児 保護者対象健康 状況調査	平成 18 年度 1 歳 6 か月児 保護者対象健康 状況調査		平成 24 年度 1 歳 6 か月児 保護者対象健康 状況調査	

目標〇日本の食文化を大切にしよう

関連指標		現状値	中間評価値 (平成 18 年度)	目標値	最終評価値 (平成 24 年度)	目標に対する評価
適正体重を維 持する人の割 合	20～30 歳代男性 BMI25 以上（肥満）	26.1%	25.0%	17%以下	26.6%	△
	20～30 歳代女性 BMI18.5 未満（やせ）	16.1%	8.9%	8%以下	16.5%	△
		平成 13 年度 1 歳 6 か月児 保護者対象健康 状況調査	平成 18 年度 1 歳 6 か月児 保護者対象健康 状況調査		平成 24 年度 1 歳 6 か月児 保護者対象健康 状況調査	
	35 歳以上男性 BMI25 以上（肥満）	32.2%	31.1%	20%以下	29.2%	○
	35 歳以上女性 BMI25 以上（肥満）	23.0%	24.9%	15%以下	18.3%	○
		平成 13 年度 基本健康診査	平成 18 年度 基本健康診査		平成 24 年度 越谷市・健康と 医療についての アンケート	
体格指数（BMI）の算出方法を知って いる人の割合		44.8% (平成 15 年度)	51.7%	60%以上	54.3%	○
		平成 15 年度 市政世論調査	平成 18 年度 市政世論調査		平成 24 年度 越谷市・健康と 医療についての アンケート	

関連指標		現状値	中間評価値 (平成 18 年度)	目標値	最終評価値 (平成 24 年度)	目標に対する評価
1日のうち、主食・主菜・副菜のそろった食事を1回はしている人の割合	20～30 歳代	96.1%	95.9%	増加させる	93.3%	△
		平成 13 年度 1歳6か月児 保護者対象健康 状況調査	平成 18 年度 1歳6か月児 保護者対象健康 状況調査		平成 24 年度 1歳6か月児 保護者対象健康 状況調査	
					92.3%	
					平成 24 年度 越谷市・健康と 医療についての アンケート	
食品の栄養成分表示を参考にする人の割合		47.7% ※1	—	80%以上	42.3% ※2	△
		平成 13 年度 市政世論調査			平成 24 年度 越谷市・健康と 医療についての アンケート	

※1 外食や食品購入時、栄養成分表示を「いつも参考にしている」または「ときどき参考にしている」と回答した人の割合

※2 食品購入時及び外食時に参考にする表示について、次のうち 1 つ以上を選択した人の割合：エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、塩分・ナトリウム、その他栄養素

目標○おいしい旬の野菜を食べよう

関連指標		現状値	中間評価値 (平成 18 年度)	目標値	最終評価値 (平成 24 年度)	目標に対する評価
野菜を 1 日 2 回以上食べている人の割合	20 歳代男性	38.0%	36.4%	50%以上	47.9%	○
	30 歳代男性	49.6%	53.2%	65%以上	52.9%	○
		平成 13 年度 1 歳 6 か月児 保護者対象健康 状況調査	平成 18 年度 1 歳 6 か月児 保護者対象健康 状況調査		平成 24 年度 1 歳 6 か月児 保護者対象健康 状況調査	

目標○食の安全性を求めよう

関連指標	現状値	中間評価値 (平成 18 年度)	目標値	最終評価値 (平成 24 年度)	目標に対する評価
食品の品質表示に関心を持つ人の割合	—	51. 7%	80%以上	55. 3%	○
		平成 18 年度 1 歳 6 か月児 保護者対象健康 状況調査		平成 24 年度 1 歳 6 か月児 保護者対象健康 状況調査	
				81. 1% ※3	—
				平成 24 年度 越谷市・健康と 医療についての アンケート	

※3 食品購入時及び外食時に参考にする表示について、次のうち 1 つ以上を選択した人の割合：産地、原材料、アレルギー物質、遺伝子組換え、賞味期限・消費期限、食品添加物、製造者・販売者

取組結果に対する評価

○生活のリズムを整え、「食事」を大切にしよう

「朝食を欠食する人の割合」は、児童・生徒において減少し改善がみられましたが、今後も継続して指導し、朝食欠食ゼロを目指します。また、20歳代及び30歳代においては、ほぼ横ばいで推移しており、引き続き取組が必要です。

「家族全員で食事をすることが週2回以下の人の割合」は、20歳代男性、30歳代男性ともに中間評価値で増加し、悪化したものの、最終評価値では平成13年度の現状値をやや下回りました。しかし、目標値には達しておらず、さらなる働きかけが必要です。

○日本の食文化を大切にしよう

「適正体重の維持」については、20～30歳代男性の肥満者の割合は改善がみられませんでした。20～30歳代女性のやせの割合は、中間評価値で改善したものの、最終評価値では増加し、現状値と同程度となりました。35歳以上の男女においては、現状値より改善されていますが、中間評価値と最終評価値で調査方法が異なるため、改善したとは言えません。今後も、肥満者及びやせが減少するよう、適正体重の維持について啓発が必要です。

「体格指数（BMI）の算出方法を知っている人の割合」は、現状値、中間評価値、最終評価値と上昇し、少しずつ認知度は上がっていますが、引き続き周知を図ります。

主食・主菜・副菜のそろった食事は、バランスの良い食事の基本ですが、「1日のうち主食・主菜・副菜のそろった食事を1回はしている人の割合」は増加しておらず、さらなる働きかけが必要です。

○おいしい旬の野菜を食べよう

「野菜を1日2回以上食べている人の割合」は、20歳代男性では目標値の50%に近づいたものの、30歳代男性では、中間評価からほぼ横ばいで改善がみられず、青年・壮年期を中心として継続したアプローチが必要です。

○食の安全性を求めよう

「食品の品質表示に関心を持つ人の割合」はやや増加しましたが、目標値にはほど遠く、今後も啓発が必要です。



(2) 運動

スローガン

運動習慣を身につけよう

市民及び団体の主な取組

目標〇歩くことから始めよう

〇歩く機会を増やそう

〇マイカーからサイクリングにしよう

〇1日30分は歩こう

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
ウォーキング教室・大会を開催します	歩くことを心がける意識の普及啓発	ウォーキング教室や大会などの開催	各地区コミュニティ推進協議会・各地区スポーツ・レクリエーション推進委員会・市民健康課など
緑道を整備します	ウォーキング、サイクリング時の安全の確保	八条用水緑道の整備	公園緑地課

目標〇自分に合った運動・スポーツをみつけよう

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
各種講座や教室を開催します	市民の運動実践への参加機会の創設	市内駅伝競走大会・元旦マラソン大会の開催	体育協会
		スポーツ・レクリエーションフェスティバル、グラウンド・ゴルフ大会などの開催	レクリエーション協会
		ソフトボール大会、バレーボール大会、ビーチボールバレー大会などの開催	各地区スポーツ・レクリエーション推進委員会
		生涯スポーツ講座、障がい者スポーツ教室などの開催	スポーツ振興課
		マラソン大会、水泳大会、とび箱、マット運動などの実施	市内各幼稚園
		健康体操教室、ハッポちゃん体操公開練習などの実施	市民健康課
		健康体操講習会、体力づくり講習会、健康づくり講座などの開催	老人福祉センター
		健康講座の開催	くらしの会

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
各種講座や教室を開催します	市民の運動実践への参加機会の創設	スポーツ・チャンバラ、すこやか体操教室、世代間交流促進事業グラウンド・ゴルフ大会、普通救命講習会の実施	各地区コミュニティ推進協議会
		グラウンド・ゴルフ大会の開催	老人クラブ連合会
		健康体操、フラダンス教室、ゴルフ教室などの開催	各地区センター・公民館
		すこやか体操教室、いきいき元気教室、シルバーカレッジなどの開催	高齢介護課
情報サービスを提供、支援します	情報サービスの提供	教育委員会主催事業について、インターネット・ホームページに記載	スポーツ振興課
スポーツ広報紙を発行します	スポーツ広報紙の発行	広報誌「スポーツのまち越谷」を発行（スポーツ推進委員連絡協議会より年1回2,000部発行し、事業等紹介）	スポーツ振興課
運動を普及するリーダーを育成します	運動を普及するリーダーの育成	健康運動実践指導者の養成	埼玉県県民健康福祉村
ハッポちゃん体操を普及させます	ハッポちゃん体操の普及	ハッポちゃん体操公開練習（健康体操教室、歯科フェア、ハッポちゃん体操普及員情報交換会、ハッポちゃん体操普及員養成講習会）の実施	市民健康課
		ふれあいサロン（ハッポちゃん体操）で実施	母子愛育会

取組結果

目標〇歩くことから始めよう

〇歩く機会を増やそう

〇マイカーからサイクリングにしよう

〇1日30分は歩こう

関連指標	現状値	中間評価値 (平成18年度)	目標値	最終評価値 (平成24年度)	目標に対する評価
歩くことを心がけている人の割合	—	64.7% 平成18年度 市政世論調査	80%以上	49.4% 平成24年度 越谷市・健康と 医療についての アンケート	△
意識的に身体を動かすことを心がけている・少し心がけている人の割合	—	—	—	85.8% 内 訳： 心がけている 42.2% 少し心がけている 43.6% 平成24年度 越谷市・健康と 医療についての アンケート	—

関連指標	現状値	中間評価値 (平成 18 年度)	目標値	最終評価値 (平成 24 年度)	目標に対する評価
1 日の平均歩行時間 (30 分以上)	—	—	—	72. 3%	—
				平成 24 年度 越谷市・健康と 医療についての アンケート	

目標○自分に合った運動・スポーツをみつけよう

関連指標	現状値	中間評価値 (平成 18 年度)	目標値	最終評価値 (平成 24 年度)	目標に対する評価
週 1 回以上スポーツをしている人の割合	29. 6%	38. 2%	50%以上	44. 1%	○
				平成 24 年度 市政世論調査	
	平成 13 年度 市政世論調査	平成 18 年度 市政世論調査		60. 6%	—
				平成 24 年度 越谷市・健康と 医療についての アンケート	

取組結果に対する評価

○歩くことから始めよう

○歩く機会を増やそう

○マイカーからサイクリングにしよう

○1 日 3 0 分は歩こう

歩くことを心がけている人の割合は、最終評価値 4 9. 4 %で中間評価値 6 4. 7 %より大幅に減少しています。中間評価では歩くことを心がけているかを、「はい」「いいえ」のどちらかで回答するとしていましたが、最終評価では、「健康な生活を送るために心がけていること」について「適正体重を維持する、または目指す」「食生活に気をつける」「歩くことを心がける」など 1 9 項目の中から 1 つまたは複数を回答するという方法であったため、数値が減少していると考えられます。

しかし、「生活の中で意識的に体を動かすことを心がけていますか」の質問に「心がけている」「少し心がけている」人の割合が 8 5. 8 %であったことから、歩くことも含め、生活の中で体を動かそうという意識が高まっていると考えられます。また、1 日の平均歩行時間（3 0 分以上）についても関連性があるため併記しました。追加した 2 つの関連指標も考慮すると、歩くことを心がけていることについては、ほぼ目標を達成していると考えられますが、引き続き歩くことを通じての健康の増進について取組を進めます。

○自分にあった運動・スポーツをみつけよう

週に 1 回以上スポーツをしている人の割合は、平成 1 3 年度の現状値 2 9. 6 %より最終評価値では 4 4. 1 %と増加していますが、目標値 5 0 %以上には達していない状況です。今後も運動習慣の必要性について周知していきます。

(3) たばこ

スローガン

たばこの健康への影響を知ろう

まわりの人を思いやり分煙につとめよう

市民及び団体の主な取組

目標○未成年者の喫煙を防止しよう

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
学校で禁煙教育をします	未成年者の喫煙による健康への影響の周知啓発	薬物乱用防止教室を開催し、学校での禁煙教育を実践	学務課

目標○妊婦の喫煙を防止しよう

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
母親学級、産科での禁煙教育をします	妊婦の喫煙による胎児などへの影響の意識の啓発	母親学級・両親学級で「たばこによる胎児などへの影響」についての講話	市民健康課

目標○喫煙による健康への影響に関する知識を普及しよう

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
喫煙による健康への影響についての情報提供をします	喫煙による健康への影響についての情報提供	たばこと健康についてのパネル展示	安全衛生管理課
		全面禁煙・空間分煙実施施設の認証	保健所
		禁煙講座、禁煙支援を実施	市民健康課
視覚に訴えるようなPRをします	禁煙の啓発	禁煙講座について広報、市ホームページ、ポスター、チラシにて周知、視覚に訴える効果的なPRを推進	市民健康課

目標○禁煙希望者を支援しよう

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
禁煙外来の情報提供をします	禁煙希望者の支援	禁煙講座を開催、禁煙外来のある医療機関を市ホームページで公開し、禁煙講座で一覧表を配布	市民健康課

取組結果

目標○未成年者の喫煙を防止しよう

関連指標	現状値	中間評価値 (平成 18 年度)	目標値	最終評価値 (平成 24 年度)	目標に対する評価
未成年者の喫煙率	10 歳代男性の 喫煙率 6.9%	—	0%	19 歳以下 (18 歳・19 歳) 男性の喫煙率 25.0%	△
	平成 13 年度 市政世論調査			平成 24 年度 越谷市・健康と 医療についての アンケート	
未成年者の喫煙による健康への影響を 知っている人の割合*1	—	—	100%	56.3%	—
				平成 24 年度 越谷市・健康と 医療についての アンケート	

目標○妊婦の喫煙を防止しよう

関連指標	現状値	中間評価値 (平成 18 年度)	目標値	最終評価値 (平成 24 年度)	目標に対する評価
妊婦の喫煙率	母親学級参加 者の喫煙率 5.6%	母親学級参加 者の喫煙率 0.1%	0%	母親学級参加 者の喫煙率 0.7%	○
	平成 14 年度 上半期母親学級 アンケート	平成 18 年度 上半期母親学級 アンケート		平成 24 年度 上半期母親学級 アンケート	
妊婦の喫煙による健康への影響を知っ ている人の割合*1	—	—	100%	妊娠に影響が ある (早産・ 流産、子宮外 妊娠など) 59.0%	—
				胎児に影響が ある (低出生 体重や死産な ど) 62.1%	
				平成 24 年度 越谷市・健康と 医療についての アンケート	

コラム：禁煙外来って？

ニコチン依存症は治療が必要な病気とされており、禁煙に向けて治療が受けられる専門外来を禁煙外来と言います。病院で治療薬を処方してもらうことにより禁煙の成功率が高まります。

現在は健康保険等を使って禁煙治療が受けられるようになりました。禁煙治療 (自己負担 3 割として) は、処方される薬にもよりますが 8~12 週間で 12,000 円~19,000 円程度です。1 日 1 箱喫煙する方なら、8~12 週間分のたばこ代より保険診療で禁煙治療を受けた場合の自己負担額のほうが安くなる計算になります。



目標○喫煙による健康への影響に関する知識を普及しよう

関連指標	現状値	中間評価値 (平成18年度)	目標値	最終評価値 (平成24年度)	目標に対する評価
喫煙による健康への影響を知っている人の割合*1	肺がん 74.3%	(肺)がん 83.9%	100%	がん 78.2%	○
	気管支炎 53.4%	気管支炎 51.0%		気管支炎 50.0%	△
	妊娠への影響 67.0%	妊娠への影響 78.5%		妊娠への影響*2 66.7%	△
	喘息 50.6%	喘息 41.0%		喘息 38.8%	△
	平成12年度 生活と健康に関する調査(埼玉県)	平成16年度 市政世論調査		平成24年度 越谷市・健康と医療についてのアンケート	

*1 「あなたは、喫煙が及ぼす次のような健康への影響をご存じですか。」(問22)の質問で13項目のうちに1つまたは複数に回答した人の割合

*2 「妊娠に影響がある」と「胎児に影響がある」のどちらか1つでも知っている人の割合

目標○分煙による環境保全を推進しよう

関連指標	現状値	中間評価値 (平成18年度)	目標値	最終評価値 (平成24年度)	目標に対する評価
公共施設の分煙率	市町村庁舎 90.0%	庁舎他公共施設 100%	100%	庁舎他公共施設 100%	◎
	平成14年度 市町村における喫煙対策の実施状況調査(埼玉県)			平成24年度 市町村における喫煙対策の実施状況調査(埼玉県)	
マナーを守る人の割合	—	—	100%	88.0% 平成24年度 越谷市・健康と医療についてのアンケート	—

目標○禁煙希望者を支援しよう

関連指標	現状値	中間評価値 (平成18年度)	目標値	最終評価値 (平成24年度)	目標に対する評価
成人の喫煙率	—	35歳以上者の喫煙率 17.6%	現状値より減少	35歳以上者の喫煙率 15.9%	◎
		平成18年度 基本健康診査受診者		平成24年度 越谷市・健康と医療についてのアンケート	
禁煙指導を行っている施設の増加	医療機関12	医療機関17	現状値より増やす	医療機関24	◎
	平成12年11月27日付 埼玉県健康づくり支援課通知	平成18年1月23日現在 越谷市内医療機関		平成24年9月現在 越谷市内医療機関	

取組結果に対する評価

○未成年者の喫煙を防止しよう

未成年者の喫煙の防止について、現状値が「10歳代男性の喫煙率」となっていることから、最終評価値も「18歳・19歳男性の喫煙率」で比較しました。回答数が少なく、また男性に限定しての評価となっているため、正確な評価となりませんでしたが、未成年の喫煙率は0%の目標値には達成していないと考えられます。

○妊婦の喫煙を防止しよう

妊婦の喫煙の防止について、「妊婦の喫煙率」は最終評価値は現状値から比較すると減少しているものの、中間評価値との比較では若干増加しています。未成年者の喫煙と合わせて、喫煙率を0%にするための対策を継続していく必要があると考えます。

○喫煙による健康への影響に関する知識を普及しよう

喫煙による健康への影響に関する知識の普及について、がん、気管支炎及び妊娠への影響の認知度が50%を超えていますが、現状値や中間評価値と比較すると増減が見られる項目もあり、項目によって差があるため、認知度が低い項目においては引き続き知識の普及が必要です。（*2「妊娠への影響」の最終評価値については、「妊娠に影響がある」と「胎児に影響がある」のどちらか1つでも知っている人の割合としています。）

○分煙による環境保全を推進しよう

分煙による環境保全の推進について、「公共施設の分煙率」については、健康増進法に基づく受動喫煙防止対策が図られ、中間評価値・最終評価値ともに目標値を達成しました。また、「マナーを守る人の割合」は最終評価値88.0%となっており喫煙者の多くがマナーを守っている一方、守れない人も12%いることから、非喫煙者への影響など引き続き周知を図っていく必要があります。

○禁煙希望者を支援しよう

禁煙希望者を支援しようについて、「35歳以上の喫煙率」は調査対象母集団が異なるため、現状値より減少するという目標を達成したかは評価できませんが、喫煙率が減少している傾向はうかがえます。禁煙指導ができる施設は増加しており、禁煙希望者が禁煙指導を受けられるよう支援していく必要があります。



(4) 歯科保健

スローガン

お口の健康をみんなで守ろう

しっかり食べてきちんと歯をみがき丈夫な歯をつくろう

市民及び団体の主な取組

目標○乳幼児期・学齢期の虫歯を予防しよう

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
早期発見のための各種健診の充実を図ります（1歳6か月、3歳、就学時、学校、成人、在宅、障害のある方など）	早期発見のための各種健診の充実を図る	幼稚園・保育所等歯科保健指導・フッ化物洗口事業、歯科健診、妊婦歯科健診、知的障害者入所施設歯科健診、口腔がん検診など	歯科医師会
		幼稚園・保育園歯科健診、歯みがき指導	幼稚園・保育園 保育課
		歯科健康フェア・歯みがき指導、フッ化物塗布、フッ化物洗口	埼玉県歯科衛生士会越谷支部
		1歳6か月児・3歳児健診（歯科健診・ブラッシング指導）など	市民健康課
		児童福祉施設での歯科健診、ブラッシング指導、歯科相談の実施	
		就学時健康診断、小中学校歯科健診（学校歯科医による健診）の実施、小中学校での歯科健康教育（学校歯科医などによる「よい歯の教室」実施）	学務課

目標○成人期の歯周病を予防しよう

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
生涯を通じた歯科保健教育を推進します	生涯を通じた歯科保健教育の推進	成人歯科健康診査、歯科健診相談、在宅訪問歯科保健事業などの実施	市民健康課
		「広報こしがや」で歯と口の健康週間特集を掲載、歯科健康フェア開催など	歯科医師会
		歯科保健計画推進事業の実施	保健所

目標〇一生自分の歯で食べよう

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
胎児・乳児期からの 歯科保健教育	胎児・乳児期からの歯 科保健教育の推進	母親学級(歯科医師による講話)の実施	市民健康課
		歯みがき指導・フッ素講習会(保護者 対象)などの実施	幼稚園・保育園
学齢期の歯科保健 教育	学齢期の歯科保健教 育の推進	歯・口の健康に関する図画・ポスター 及び標語コンクール、越谷市学校歯科 保健コンクールなどの実施	学務課
青年期～壮年期の歯 科保健教育	青年期～壮年期の歯 科保健教育の推進	市民健康教室、成人歯科健康診査の実 施	市民健康課
高齢期の歯科保健教 育	高齢期の歯科保健教 育の推進	地域支援事業口腔機能向上プログラ ムの実施	高齢介護課 歯科医師会 埼玉県歯科衛 生士会越谷支 部

目標〇子供の頃から歯によいものを食べよう(丈夫な歯をつくろう)

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
歯によい食べ物の PRや教室を開催し ます	歯によい食べ物の PR	8020よい歯のコンクール、歯の健 康家族コンクール、越谷市母と子のよ い歯コンクール	歯科医師会
		歯科健康フェアの開催	市民健康課

取組結果

目標〇乳幼児期・学齢期の虫歯を予防しよう

関連指標	現状値	中間評価値 (平成18年度)	目標値	最終評価値 (平成24年度)	目標に対 する評価
虫歯のない3歳児の割合	73.0%	75.5%	80%以上	83.9%	◎
	平成13年度 3歳児健康診査	平成18年度 3歳児健康診査		平成24年度 3歳児健康診査	
3歳児の一人あたりの虫歯の本数	1.09本	0.98本	1本未満	0.55本	◎
	平成13年度 3歳児健康診査	平成18年度 3歳児健康診査		平成24年度 3歳児健康診査	
小学生の一人あたりの虫歯の本数	1.05本	0.64本	0.5本未満	0.49本	◎
	平成13年度 学校歯科保健 状況調査	平成18年度 学校歯科保健 状況調査		平成24年度 学校歯科保健 状況調査	
中学生の一人あたりの虫歯の本数	3.65本	2.68本	2.5本未満	1.89本	◎
	平成13年度 学校歯科保健 状況調査	平成18年度 学校歯科保健 状況調査		平成24年度 学校歯科保健 状況調査	

目標○成人期の歯周病を予防しよう

関連指標	現状値	中間評価値 (平成 18 年度)	目標値	最終評価値 (平成 24 年度)	目標に対する評価
進行した歯周病を持つ人の割合	69.5%	68.1%	65%以下	72.0%	△
	平成 16 年度 成人歯科健康診 査	平成 18 年度 成人歯科健康診 査		平成 24 年度 成人歯科健康診 査	
歯間部清掃用具を使用する人の割合	25.3%	27.4%	30%以上	27.3%	○
	平成 16 年度 成人歯科健康診 査	平成 18 年度 成人歯科健康診 査		平成 24 年度 成人歯科健康診 査	

目標○一生自分の歯で食べよう

関連指標	現状値	中間評価値 (平成 18 年度)	目標値	最終評価値 (平成 24 年度)	目標に対する評価
60 歳で 24 本以上の歯を持つ人の割合	67.5%	65.8%	70%以上	73.6%	◎
	平成 13 年度 成人歯科健康診 査	平成 18 年度 成人歯科健康診 査		平成 24 年度 成人歯科健康診 査	
成人歯科健診を受診した人の割合	5.5%	6.7%	8.0%以上	8.3%	◎
	平成 16 年度 成人歯科健康診 査	平成 18 年度 成人歯科健康診 査		平成 24 年度 成人歯科健康診 査	

目標○子どもの頃から歯によいものを食べよう（丈夫な歯をつくろう）

関連指標	現状値	中間評価値 (平成 18 年度)	目標値	最終評価値 (平成 24 年度)	目標に対する評価
母親学級受講者の胎児期からの歯の大切さを理解している人の割合	—	91.1%	95%以上	99.0%	◎
		平成 18 年度 母親学級受講者 アンケート		平成 24 年度 母親学級受講者 アンケート	

取組結果に対する評価

○乳幼児期・学齢期の虫歯を予防しよう

乳幼児期・学齢期の虫歯予防については、ひとりあたりの虫歯の本数が減少しており、目標を達成している状況です。

○成人期の歯周病を予防しよう

成人歯科健康診査では、進行した歯周病を持つ人の割合は目標を達成していませんが、歯間部清掃用具を使用する人の割合については現状値より増加傾向にあります。

○一生自分の歯で食べよう

60 歳で 24 本以上の歯を持つ人の割合は最終評価値で 73.6%と、目標値の 70%に達しました。成人歯科健康診査の受診率についても 8.3%で目標値の 8.0%に達しました。一生自分の歯で食べるためには、喪失歯を減らすための口腔ケアや歯の健診が大切であるため、今後も口腔ケアや健診について普及啓発をする必要があります。

○子どもの頃から歯によいものを食べよう（丈夫な歯をつくろう）

母親学級受講者アンケートでは 99.0%の方が胎児からの歯の大切さを理解していて、目標を達成しています。

(5) 心の健康（アルコールを含む）

スローガン

生きがいのある心豊かな人生を送ろう

よい生活習慣で心もさわやかにしよう

ほっとするひとときをもとう

市民及び団体の主な取組

目標○ボランティア活動をととして社会参加をしよう

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
花いっぱい運動を実施します 苗木・記念樹・球根等を配布します	ボランティア活動をととして社会参加の推進	花いっぱい運動、苗木・記念樹・球根等の配布の実施	各地区コミュニティ推進協議会・各地区センター・公民館
ボランティア活動を充実・促進・育成します	ボランティアの育成、活動の充実と促進	ボランティアフォローアップ講座、ジュニアボランティアスクールの開催 クリーン作戦などの実施	社会福祉協議会 各地区コミュニティ推進協議会・各地区センター

目標○うちこめる趣味をもとう

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
趣味・教養講座を開催します	趣味を持つことで健康への意識を高めることの支援	家庭教育学級、おやこ体験教室、子ども伝統文化教室、女性セミナーなどを開催	各地区センター・公民館
		健康講話、認知症サポーター講座などを実施	社会福祉協議会
		廃油で石鹸づくり	くらしの会
市民文化祭を開催します		市民文化祭の開催	生涯学習課
趣味・娯楽の会を開催します		趣味・娯楽の会の開催	老人クラブ連合会
農園等の貸出しをします		市民農園の貸し出し いきいき農園の無料貸し出し	農業振興課 高齢介護課

目標〇お酒はほどほどに楽しく飲もう

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
アルコールに関する講演会を開催します	多量に飲酒する人の減少に努める	こころの健康づくり講座の開催	障害福祉課 市民健康課
精神保健相談（アルコール）を実施します		アルコール相談会の開催	保健所

目標〇毎日を気持ちよく過ごそう

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
各種健康講座を開催します	心の健康状態の改善のため各種講座の開催	こころの健康づくり講座の開催	障害福祉課 市民健康課
		自殺予防講演会（ゲートキーパーについて）の開催	市民健康課
		メンタルヘルス研修	安全衛生管理課
		「心の健康講座～老年期うつ」、シルバーカレッジ（喜怒哀楽の秘密、快眠で作る心と体の健康）の開催	高齢介護課
		夏期役員研修会（「高齢者とくすり」薬剤師会副会長の講話）、役員指導者研修会の開催	老人クラブ連合会

目標〇コミュニケーションの場や機会をつとめてつくろう

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
地域のふれあいやコミュニケーションを推進します	地域のふれあいやコミュニケーションを推進	ふれあいの集い、コミュニティ講演会などの開催	各地区コミュニティ推進協議会
		ふれあいサロンの実施	社会福祉協議会
		高齢者学級、熟年者学級などの開催	各地区センター・公民館
親子ふれあい講座を開催します	親子のふれあいの機会を創設	夏休みキャンプ教室、リトミック講座、親子ふれあい学級などの開催	各地区センター・公民館
	子育て支援	「楽しい子育て講座」の開催	母子愛育会

目標〇いやしの方法をみつけよう

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
市民保養施設「おがの山荘」を運営します	いやしの時間を持つための支援	国民宿舎「両神荘」の宿泊費を助成	国民健康保険課
シンポジウム・講演会等を開催します		こころの健康づくり講座（再掲）	障害福祉課 市民健康課
		自殺予防講演会（ゲートキーパーについて）の開催（再掲）	市民健康課
心の悩み電話相談等を設置PRします	心の悩みの電話相談等を実施し、PRを促進	ひきこもり相談の実施	保健所
心の悩み電話相談等を設置PRします	心の悩みの電話相談等を実施し、PRを促進	こころの体温計セルフチェックシステム導入、自殺予防クリアファイルの配布、こころの体温計ちらし・カード作成・配布、こころの健康に関する図画コンクール最優秀作品採用ポスターを掲示	市民健康課
		健康相談室だよりの掲載、メンタルヘルスに関する相談の実施	安全衛生管理課

取組結果

目標〇ボランティア活動をととして社会参加をしよう

関連指標	現状値	中間評価値 (平成18年度)	目標値
ボランティア登録者数	982人	1,130人	2,000人以上
	越谷市社会福祉協議会事業報告・決算報告	越谷市社会福祉協議会事業報告・決算報告	
ボランティア活動参加率	—	地域の福祉活動に参加しており、今後も続けたい人の割合 6.1%	
		平成17年度市政世論調査	

※中間評価時に項目を削除したため、最終評価は、実施していない。

目標〇うちこめる趣味をもとう

関連指標	現状値	中間評価値 (平成18年度)	目標値	最終評価値 (平成24年度)	目標に対する評価
健康のために心がけていることの中に、「趣味を持つ」人の割合	(参考)趣味を持っている人の割合 83.1%	36.7%	50%以上	32.8%	△
	越谷市社会福祉協議会事業報告・決算報告	越谷市社会福祉協議会事業報告・決算報告		平成24年度越谷市・健康と医療についてのアンケート	

目標〇お酒はほどほどに楽しく飲もう

関連指標	現状値			中間評価値 (平成 18 年度)		目標値		最終評価値 (平成 24 年度)		目標に対 する評価	
毎日飲酒する人の割 合	男性		36. 6%	男性		32. 8%	男性 30%以下	男性		15. 5%	◎
		20 代	34. 1%		20 代	24. 2%			20 代	7. 0%	
		30 代	37. 8%		30 代	35. 5%			30 代	12. 7%	
		40 代	35. 7%		40 代	29. 3%			40 代	29. 7%	
	女性		15. 6%	女性		11. 7%	女性 10%以下	女性		2. 2%	◎
		20 代	9. 6%		20 代	8. 2%			20 代	7. 1%	
		30 代	19. 0%		30 代	12. 8%			30 代	2. 3%	
		40 代	16. 7%		40 代	16. 7%			40 代	8. 3%	
	平成 13 年度 1 歳 6 か月児 保護者対象健康状況 調査			平成 18 年度 1 歳 6 か月児 保護者対象健康状況調 査				平成 24 年度 1 歳 6 か月児 保護者対象健康状況調 査			
	—			—		—		男性		52. 8%	
女性								25. 4%			
平成 24 年度 越谷市・健康と医療に ついてのアンケート											
大量に飲酒をする人 の割合 (アルコール摂取量 が 1 日 60 g 以上)	—			20～30 代 の男性	14. 8%	男性	10% 以下	20～30 代の 男性	5. 0%	◎	
				20～30 代 の女性	14. 7%	女性	5% 以下	20～30 代の 女性	0. 0%	◎	
				平成 18 年度 1 歳 6 か月児 保護者対象健康状況調 査				平成 24 年度 1 歳 6 か月児 保護者対象健康状況調 査			

目標〇毎日を気持ちよく過ごそう

関連指標	現状値	中間評価値 (平成 18 年度)	目標値	最終評価値 (平成 24 年度)	目標に対する評価
心の健康状態が悪い人の割合	27.2%	11.3%	10%以下	7.5%	◎
	平成 12 年度 市政世論調査	平成 18 年度 市政世論調査		平成 24 年度 越谷市・健康と医療についてのアンケート	

目標〇コミュニケーションの場や機会をつとめてつくろう

関連指標	現状値	中間評価値 (平成 18 年度)	目標値	最終評価値 (平成 24 年度)	目標に対する評価
身近に相談できる人が一人以上いる人の割合	—	75.0%	100%	77.1%	○
		平成 18 年度 市政世論調査		平成 24 年度 越谷市・健康と医療についてのアンケート	

目標〇いやしの方法をみつけよう

関連指標	現状値	中間評価値 (平成 18 年度)	目標値	最終評価値 (平成 24 年度)	目標に対する評価
ストレス解消法を持っている人の割合	(参考) 心身の疲労回復方法を持っている人の割合 62.7%	71.4%	80%以上	70.4%	○
		平成 18 年度 市政世論調査		平成 24 年度 越谷市・健康と医療についてのアンケート	
		70.5%		70.6%	
	平成 11 年度健康づくりの休養度に関する実態調査(埼玉県)	平成 18 年度 1 歳 6 か月児保護者対象健康状況調査		平成 24 年度 1 歳 6 か月児保護者対象健康状況調査	○

取組結果に対する評価

- ボランティア活動をととして社会参加をしよう
- うちこめる趣味を持とう
- お酒はほどほどに楽しく飲もう
- 毎日を気持ちよく過ごそう
- コミュニケーションの場や機会をつとめてつくろう
- いやしの方法をみつけよう

健康のために心がけていることの中に、「趣味を持つ」人の割合は、中間評価値の 36.7%から最終評価値では32.8%と減少しています。また、ストレス解消法を持っている割合は中間評価・最終評価ともに、約7割とほとんど変化は見られません。しかし、心の健康状態が悪いと感じている人の割合は中間評価値11.3%から最終評価値7.5%へと減少しています。身近に相談できる人が一人以上いる人の割合は、中間評価が75.0%、最終評価が77.1%と大きな変動は見られません。

相談できる人が一人もいない人が全体の約2割、ストレス解消法を持たない人も約3割おり、そのグループに対する対策が必要です。

毎日飲酒する人の割合については、1歳6か月児健診参加世帯調査では、中間評価値に比べ最終評価値では著しい減少が見られます。特に男女ともに20歳代から30歳代は減少し、また、大量に飲酒する人の割合も、20歳代から30歳代では大幅に減少が見られます。しかし、40歳代男性の毎日飲酒している人の割合は約30%と中間評価・最終評価でほとんど変化なく、壮年期以降の飲酒についての対策を検討していく必要があります。一方、アンケート結果では、男性約50%、女性約25%の方が毎日飲酒をしていることから、引き続き適切な飲酒量や休肝日を設けることなどについて、心の健康の面と生活習慣病予防の観点から、取組が必要です。

(6) メタボリックシンドロームの予防とがん対策の充実

スローガン

よい生活習慣を身につけよう

健康診査・検診を定期的に受けましょう

市民及び団体の主な取組

目標〇特定健康診査を受診しよう

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
健康に関する情報提供・意識啓発を推進します	特定健診の周知と受診率の向上への取組	特定健康診査及び健康診査対象者へ受診券・受診案内の発送、広報・ホームページによる周知、市民まつりでの広報活動の実施、市内公共施設と実施医療機関でポスターを掲示	市民健康課 国民健康保険課
		地域職域連携推進事業（特定健診受診率向上事業）を実施	保健所
特定健康診査等について受診しやすい環境を目指します		特定健康診査等について受診しやすい環境を整備	国民健康保険課・市民健康課・医師会

目標〇がん検診を受診しよう

支援すること	主な取組	内 容	団体・担当課
健康に関する情報提供・意識啓発を推進します	がん検診の周知と受診率の向上への取組	がん予防講演会「子宮がん徹底予防術～検診とワクチンの実力」の実施	市民健康課 医師会
がん検診について受診しやすい環境を目指します		がん検診の実施	

取組結果

目標〇特定健康診査を受診しよう

関連指標	現状値	中間評価値 (平成 18 年度)	目標値	最終評価値 (平成 24 年度)	目標に対する評価
特定健康診査の受診率 (越谷市国民健康保険被保険者)	—	28.7%	55%以上	35.3%	○
		平成 18 年度 基本健康診査受診の国保加入者から集計		平成 24 年度 特定健康診査結果	

目標〇がん検診を受診しよう

関連指標	現状値	中間評価値 (平成 18 年度)	目標値	最終評価値 (平成 24 年度)	目標に対する評価
肺がん検診の受診率	—	6.0% (平成 18 年度・ 40 歳以上)	15%以上	15.9% (平成 24 年度・ 40 歳以上)	◎
		平成 18 年度 検診結果		平成 24 年度 検診結果	
胃がん検診の受診率	—	8.5% (平成 18 年度・ 40 歳以上)	15%以上	10.7% (平成 24 年度・ 40 歳以上)	○
		平成 18 年度 検診結果		平成 24 年度 検診結果	
大腸がん検診の受診率	—	12.8% (平成 18 年度・ 40 歳以上)	15%以上	16.2% (平成 24 年度・ 40 歳以上)	◎
		平成 18 年度 検診結果		平成 24 年度 検診結果	
子宮がん検診の受診率	—	7.4% (平成 18 年度・ 20 歳以上)	15%以上	9.2% (平成 24 年度・ 20 歳以上：妊婦 健診を含まず)	○
		平成 18 年度 検診結果		平成 24 年度 検診結果	
乳がん検診の受診率	—	10.4% (平成 18 年度・ 35 歳以上)	15%以上	17.0% (平成 24 年度・ 35 歳以上)	◎
		平成 18 年度 検診結果		平成 24 年度 検診結果	
肺がん検診 要精密検査の方の受診率	—	77.8%	未受診者を 減少させま す。	80.4 % (平成 22 年度)	◎
		平成 18 年度 市民健康課調査		平成 22・23 年度 がん検診精度管理 事業調査票	
胃がん検診 要精密検査の方の受診率	—	54.6%	未受診者を 減少させま す。	86.3% (平成 22 年度)	◎
		平成 18 年度 市民健康課調査		平成 22・23 年度 がん検診精度管理 事業調査票	
大腸がん検診 要精密検査の方の受診率	—	46.0%	未受診者を 減少させま す。	75.5% (平成 22 年度)	◎
		平成 18 年度 市民健康課調査		平成 22・23 年度 がん検診精度管理 事業調査票	
子宮がん検診 要精密検査の方の受診率	—	81.2%	未受診者を 減少させま す。	頸部がん 72.2% (平成 22 年度)	△
		平成 18 年度 市民健康課調査		平成 22・23 年度 がん検診精度管理 事業調査票	
乳がん検診 要精密検査の方の受診率	—	72.2%	未受診者を 減少させま す。	85.9% (平成 22 年度)	◎
		平成 18 年度 市民健康課調査		平成 22・23 年度 がん検診精度管理 事業調査票	

取組結果に対する評価

○特定健康診査を受診しよう

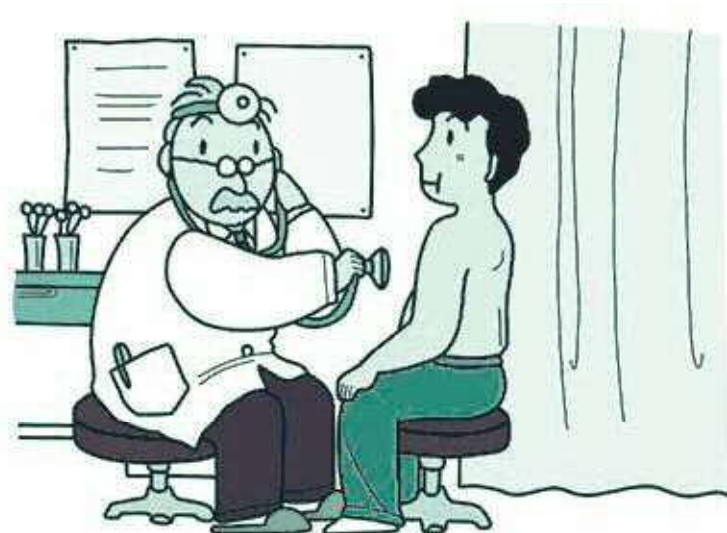
特定健康診査を受診した人は、各年度の受診率により増加傾向にあることが分かります。しかし、最終評価値は目標値の55%には約20ポイント及ばず、今後も積極的に受診勧奨を実施していく必要があります。

○がん検診を受診しよう

5つのがん検診のうち、肺がん・大腸がん・乳がん検診については目標値の15%以上を達成しました。その他の胃がん・子宮がん検診については目標値には及びませんでした。年々増加傾向にあります。

検診の結果精密検査が必要とされた方の精密検査受診率は、子宮がん検診以外は増加傾向にあり、目標である未受診者を減少させることができました。

平成24年度から新たに実施している前立腺がん検診及び口腔がん検診についても、5つのがん検診と同様に、がん検診を受診する方を増やし、受診した結果、精密検査が必要となった方が必ず精密検査を受診するよう引き続き意識啓発、検診周知、受診勧奨を実施していく必要があります。



4 今後の課題

第1次計画では、壮年期死亡の減少と健康寿命の延伸を実現することを目指し、6領域を設定し、市民や関係機関・団体、行政が協働で計画を推進してきました。

今後、越谷市はさらに速いスピードで高齢化が進んでいくと予測されています。高齢者の健康づくりも踏まえ、6領域における課題を整理し、第2次計画を策定します。

(1) 食生活の課題

朝食を欠食する人の割合は減少してきていますが、特に若い世代では朝食をとることが習慣化されていない傾向が見られます。望ましい食習慣と生活リズムを身につけるための取組が引き続き必要です。また、偏った食事は肥満や生活習慣病を招くことから、バランスのよい食事摂取についても課題が残されています。家庭や仲間で作って食べることの楽しさを啓発するとともに、バランスのとれた食生活の実践に向けての取組が必要です。

アンケート結果では、男性は食育への関心が低い傾向にあり、食育への関心と主食・主菜・副菜のそろった食事の回数が比例する傾向にあることから、性別やライフステージに合わせた食育の取組が必要です。

(2) 運動の課題

アンケート結果から、生活の中で体を動かすことを「心がけている」と「少し心がけている」人の割合は8割半ばとなっていますが、運動の頻度では「ほとんどしていない」人は約3割で一番高い割合となっており、体を動かす必要性は認識していても実践につながっていない人が多くみられます。1日の歩行時間も1時間未満の人が半数以上となっており、日常生活の中でプラス10分（プラス1,000歩）歩くことなど、体を動かすことへの取組が必要です。

(3) たばこの課題

健康増進法の施行により公共施設の禁煙や地域での分煙は進んできましたが、アンケート結果から、副流煙の害も含め喫煙による健康への害については年齢によっても認識に違いが見られ、年齢に応じたさらなる知識の普及啓発が必要です。また、たばこを吸っている人の禁煙希望は5割以上となっており、禁煙したい人を支援する取組が必要です。

(4) 歯科保健の課題

虫歯に対する対策は成果が出てきていますが、平成24年度成人歯科健康診査の結果で進行した歯周病を持つ人の割合が72.0%であったことから、歯周病対策のさらなる充実が必要です。

(5) 心の健康（アルコールを含む）の課題

若年者に自殺者が多く、アンケート調査から心の不調を感じながら医療機関を受診できていないと回答した人が8.6%でした。さらに相談できる人が一人もいない人の割合も21.9%でした。ストレス解消法の有無、悩みごとを相談できる人の有無、睡眠による休養において、40歳代男性の否定的な解答が多いことや、70歳代男性のストレス解消法や相談できる人の少なさ、30歳代以降50歳代女性の睡眠による休養がとれていないことが明らかとなりました。これらのことから、うつ病など精神疾患の周知を含めた自殺対策に取り組む必要があります。

飲酒については、全体の飲酒率は低下していますが、40歳代男性の飲酒率は低下していませんでした。生活習慣病も影響する飲酒量はアルコールの代謝により男女差があり、適量の認識に差があることから、さらなる周知が必要です。

(6) メタボリックシンドロームの予防とがん対策の充実の課題

特定健康診査結果及びアンケート結果から、壮年期の男性に肥満が多いことがわかりました。40歳代から高血圧の治療が開始され、50歳代では女性の約2割、男性の約3割が医療機関を受診しています。また、糖尿病でも50歳代の約2割が受診しており、若いころからの取組が発症予防及び重症化予防に必要です。

がん対策については、がん（悪性新生物）は国民の死因の第1位となっており、本市は県より死亡率が高くなっています。市が行うがん検診受診率は増加傾向にありますが、胃がん検診及び子宮がん検診では目標に達していませんでした。一方、国のがん対策基本計画においては、40歳～69歳の肺がん検診、胃がん検診、大腸がん検診受診率の目標値を40%、乳がん検診、子宮がん検診（子宮がん検診では20歳～69歳）は50%としています。アンケート結果からは職場（各職域の医療保険による検診）等も含めた40歳～69歳の（子宮がん検診は20歳～69歳）がん検診受診率は胃がん検診39.7%、肺がん検診30.5%、大腸がん検診40.3%、乳がん検診47.6%、子宮がん検診40.4%という結果が出ており、国の目標を大腸がん検診では達成しています。その一方、肺がん検診及び子宮がん検診では10ポイント程低く、受診率向上に向けた取組が必要です。

このように、健康における各領域での意識は高まってきていますが、実践まで至っていない状況です。第2次計画では、各年齢に合わせた健康づくりの正しい知識の普及を図るとともに、市民が自分自身の健康を維持していくための取組が必要です。また、第1次計画策定当初より、広報やホームページ、地域の啓発活動などを通じて計画の周知・普及に努めてきましたが、第2次計画においてもより多くの市民に本計画の周知を図り、健康づくりを自分自身の問題として取り組むことができるよう、地域ぐるみの取組も含め、広報やホームページへの掲載の他、リーフレット作成やイベント等での周知に努め、市民の健康づくりを積極的に推進していきます。